

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 28 年 1 月 28 日 (2016.1.28)

【公表番号】特表 2014-509371 (P2014-509371A)

【公表日】平成 26 年 4 月 17 日 (2014.4.17)

【年通号数】公開・登録公報 2014-019

【出願番号】特願 2013-546587 (P2013-546587)

【国際特許分類】

F 1 6 L 19/00 (2006.01)

C 2 1 C 5/46 (2006.01)

F 1 6 B 7/18 (2006.01)

【F I】

F 1 6 L 19/00

C 2 1 C 5/46 1 0 2 Z

F 1 6 B 7/18 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 12 月 2 日 (2015.12.2)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 5】

袋ナット自体は、差込み部分と接続部分と同様に延長されて形成されており、有利な形成によれば、袋ナットが、10～20の、特に15のネジ山を備えるように形成されているが、通常の袋ナットは、5～7のネジ山しか備えない。これにより、袋ナットが若干ゆるんだ場合でも、依然として、分離を排除し、これにより完全に不気密になることを排除するために十分なネジが存在するので、長いネジを介しても付加的な安全が与えられている。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 4】

図 1 及び 2 から、安全チューブ 3 の反対側接続部分 3 5 も、ランスホルダの反対側の端部のように、即ち接続部分 1 8 のように形成されていることがわかる。この反対側接続部分 3 5 の最深部 3 6 に、リングウェブ 3 7 が形成され、このリングウェブは、安全チューブ 3 の導入される又は導入すべき差込み部分 8 のためのストッパとして使用されるが、同時にシールゾーンとしても使用されるが、それは、ここでは、袋ナット 9 を介して、相応に高い押付力が発生され得るからである。延長された袋ナット 9 は、その内ネジ 2 1 が、ランスホルダ 2 もしくはその接続部分 1 8 の外ネジ 2 0 に対応するが、これは、特に図 3 からわかり得る。外ネジ 2 0 と内ネジ 2 1 がネジ 1 4 を生じさせるが、このネジを介して、袋ナット 9 は、個々のシールゾーンを実現するために、全体として約 15 のネジ山 4 1 , 4 2 にわたって接続部分 1 8 上を移動し得る。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 3 2 】

1	酸素ランス
2	ランスホルダ
3	安全チューブ
4	連結装置
5	連結装置
6	ランスホース
8	差込み部分
9	袋ナット
1 0 , 1 1	安全区間
1 2 , 1 3	シール面
1 5	リングシール
1 8	接続部分
1 9	メス部分
2 1	内ネジ
2 3	内面
2 5	シール面
2 6	自由端
2 8 , 3 0	リング溝
2 9 , 3 1	Oリング
3 2	シール面
3 3	シール面
3 5	反対側接続部分
3 6	最深部
3 7	リングウェブ
3 9	リング面
4 0	安全シャフト
4 1 , 4 2	ネジ <u>山</u>
4 8	面のベース部分
4 9	斜面
5 0	シールエッジ

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 1 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1 0】

袋ナット（ 9 ）が、 1 0 ～ 2 0 の、特に 1 5 のネジ山（ 4 1 , 4 2 ）を備えるように形成されていること、を特徴とする請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 項に記載の連結装置。